

本校の校風や特色について

1947(昭和22)年4月1日、奈良師範学校附属中学校として創設された本校は今年創立70周年を迎え、卒業生は11,538名を数える。1959(昭和34)年に奈良盆地北縁の平城山丘陵に校舎を移したが、その際、裏山(那羅山3号墳)から円筒棺3基(上の写真)や鳥形埴輪(橿原考古学研究所附属博物館蔵)が発見され、「古墳のある学校」としても知られる。



1968(昭和43)年、「教育目標」を改定し(右図参照)、真理の科学的な探究を重んじ、平和を願い、いのちを大切にする人間像を掲げ、自由な校風や自主・自立・自治の精神とともに本校の旗印としている。

生徒一人一人が学校の主人公であることを学校づくりの基調とし、日々の授業実践はもとより、生徒と教員がともに創りあげる学校行事を通して、深く確かな学力を培うことを大切にしている。

2006(平成18)年度よりESD(持続可能な開発のための教育)に取り組み(右図参照)、2008(平成20)年度にはユネスコスクールに加盟し(左は「認定書」)、2014年の世界大会ではESD優良実践事例集でも紹介され、生徒による実践報告を行った。校章は、伊勢大輔の古歌にも詠まれ、県や市の花ともなっているナラノヤエザクラ(右写真)をモチーフにしている。

ホールスクールアプローチによるESD

学校カリキュラム全般において、ESDの価値観(人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等)を土台として、「体系的な思考力」「代替的(批判的)な思考力」「情報の分析力や活用力」「コミュニケーション力」などを培うことを目指している。

例えば、『人権平和学習』では、生徒会が主体となる「平和の集い」、『国際理解学習』では韓国公州大学校附設中学校との交流や留学生との交流、『世界遺産学習』では、県内の文化財を訪ねる「奈良めぐり」など、特徴ある取り組みを続けている。

